

# 二〇二一年度入学試験

## 一般方式試験問題

# 国語

### 注 意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二、受験番号を解答用紙の二カ所<sup>1</sup>に書き、答えはすべて**解答用紙**に書きなさい。
- 三、問題は**1**から**3**までで、十二ページにわたって印刷してあります。
- 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

**1** 次の各問いに答えなさい。

問1 線のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、それをひらがなで書きなさい。

- (1) この問題はヨウイに解決できない。  
カシ切りバスで遊園地に行く。  
(2) ひな祭りは日本のデントウ的な行事です。  
(3) 地震にソナエて家具を固定する。  
(4) 出発のアイズを待つ。  
(5)

問2 線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- (1) 賞状を額に入れて飾る。  
(2) この仕事は君に任せる。  
(3) 決勝戦を迎え武者ぶるいする。  
(4) 群れを率いるボスぎる。  
(5) 貴重品をロッカーに入れる。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(設問の都合で省略した箇所があります。)

タツオくんが帰ってきたのは、もう晩ごはんがはじまってしまってからで、その日の晩ごはんは、いつもとふんいきがちがってた。おとあなたが、ひどく深刻な顔で、お祭りの相談をしてたんだ。

「なんているても鎮守さんの祭りだからな。今年に頭家がまわってきたのは、まわりもちの順番なんだし。ことわるわけにはいくまいよ」

おじさんはそういう意見で、おじいさんも(そうだそうだ)って顔。でも、おばさんは反対意見だった。

「まわり順っていうけど、葬式があった家なんかはとびぬかしてやるでしょうが。そりゃ、うちはそういう事情とはちがうけどお、うちの山の被害がいちばんひどかったっていうのは、村じゅうみんなわかっていることでしょうが。父ちゃんが今年の頭家は引きうけられないっていえば、みんな納得してくれるでしょうが」

言葉のしつぽがひゅいつてあがるなまり言葉で、いっしょけんめいいつてる。

② ぼくはタツオくんのひざをつついて、ひそひそきいた。

「ねえ、頭家って何？」

「祭りの世話をする家のこった。毎年二軒ずつの当番で、今年のうちとケンジンとこ」

タツオくんがひそひそと教えてくれた。

おじさんが大きな声でいった。

「おれがいつてんのは、ほかん者が納得するしねえじゃねえ。おれは、役おりの気はねえっていつてるんだ」

「だけどほいじゃあ、お金はどうするね？ 何べんもいうとるけどお、うちには頭家の割り前を引きうけられるようなお金はないんだわよお？」

ひざはつつかなかつたのに、タツオくんがまたひそひそ教えてくれた。

「祭りにかかる金は、村じゅうで分担するんだけどよ、頭家はやっぱり責任者だから、それなりにだすもんなんだ。とくに祭りの日の宴会なんかは頭家の二軒でぜんぶもつんで、三年つづけたら」

「へえ……」

( a ) 百万円ぐらいかかるんだろうなと、ぼくは思った。いや、もつとかもしれない。

でも、おじさんは、「金なんざ、つくれる」と強気の発言。

( b ) おばさんはいい返した。

「どうやってよお。え、父ちゃん。うちの山はいちばんいいところが半分がた、だめになっちゃってるんだわよ？ 山崩れで倒れちゃった木は、売り物には

ならないんだわよお？」

ぼくはドキッとしてタツオクんの横顔を見た。ひそひそきいてみた。

「ねえ、ほんと？」

「なんがだよ」

「山、半分だめだつて」

「母ちゃん、大げさなんだよ」

タツオくんはそれを、【 Ⅰ 】 いった。うそやいたくないことは、おおいそぎで吐きだしてしまおうってみたいに。

【 (c) Ⅱ 】、こういふときだからこそ、頭家はやらにやいかんのだ」

おじさんがいった。

「山がえらい目にあつた今年が、おれの頭家の番つてのは、めぐりあわせじゃあるが、<sup>③</sup>それだけじゃないのかもしれない。なあ、おやじ」

おじさんもうなずいた。

「かもしれねえ。神さん粗末そまつにしてきた覚えおぼはこれっぽっちもねえが、こういう年に頭家がまわつてきたつてのは、おまえが祭りをやれつていわつしやつとることかもしれねえ。

頭家はうけたほうがあえじゃろな。和子さんにや苦労じゃろうが」

(中略)

重い気持ちで部屋に帰ると、ぼくたちはだまってそれぞれのふとんをしき、しいたふとんの上に寝そべつた。

さきにしゃべりだしたのはタツオくんだった。

「ほんとはよ、流れちまつたあの山は、おれんちでいちばんの山だったんだ。ひいじいちゃんが植えた木が、やっと売りごろまで育つてよ、いよいよ伐りだして思つてた山で……」

六十年育てた木がよ、六割わりがたもだめになつちまつたんだもんなあ」

ぼそぼそつといつて、タツオくんは、かかえたまくらに顔をうずめた。

ぼくは、何かいつてあげたかつたけど……タツオくんが元氣になれるようなことをいつてあげたかつたけど、なんにも思いつかなかつた。

④ あのだ、宿題の算数プリント、もうやつてあるんだけど。見る？」

タツオくんは、グスツと肩かたをゆらした。

泣いてるんだつた。あのとのおじさんやおじいさんのように、男泣きしてるんだ。

ぼくは、どうしたらいいのかわからないままに、そっとタツオくんにはいよった。ぼくよりうんどがっしりしてるタツオくんの肩におでこをのつけた。あつたかい汗あせのにおい。

いきなりだった。⑤ 熱いものがのどにこみあげてきたと思うと、ぼろぼろと目からこぼれた。涙なみだは、タツオくんのシャツに落ちた。

そのとき、ぼくは、タツオくんのつらい気持ちを、ぼく自身の気持ちとして感じとってたんだった。タツオくんのお父さんやおじいさんがだいにだいに育ててきた山が……だからタツオくんにとつてもだいになものになってた山が、雨で崩くずれてだめになってしまった。そういう、とつてもだいに思ってたものがだめになってしまったときの気持ちは、ぼくも知ってたから。

四年生のときの夏休みに、パパが買ってきた帆船はんせん模型。箱の絵がすごくきれいで、自分で作ってみたくなって、夏休みの工作にするからって行って、もらった。ややこしい設計図せつけいずを見ながら、何百もの細かい部品を夏休みじゆうかかって苦労して組み立てて、あっちこっち接着剤せつちやうざいがはみだしてしまってたけど、すごいのが作れたって思ってた。始業式の日にもつてたら、先生が目をまるくして感心してくれて、ぼくはとつてもうれしかった。

でも、つぎの日の朝。ぼくの帆船は、学校の池の底にばらばらになって沈しずんでた。

ぼくは泣いた。だれがやったのかっておこるより、それがこわれてしまったことが悲しくって、泣いたりしたらみともないってわかってても、涙を止められなかった。

だいたいなものがだめになってしまったときの気分っていうのは、ほんとにただただつらい。みともないってわかってても泣くしかないぐらいに、ものすごくつらいんだ。

そしてタツオくんはいま、そういうつらさを味わってるんだった。

「……なに泣いてんだよ、男のくせによ」

タツオくんがいった。

ぼくはいそいで涙をすすりこんだ。おきあがって、手で目をふいた。

タツオくんもおきあがった。

「ばーか、泣いてんじゃねえや」

⑥ ぼくにいったにしてはちいさな声でつぶやいて、まるめた背中せなかでかくすみたいにしながら、ごしごしと顔をこすった。

「プリント、見せれや。おれ、もう眠ねむたいから写してズルする」

ミニバスケット部のキャプテンで、遊ぶときもみんなのリーダーのタツオくんは、そういつてぼくをふりむいて、にっと笑った。目はまっ赤かだったけど、いつもとおんなじ笑顔えがおで。

ぼくも笑ってみせて、学校の昼休みにすませてきてあつた宿題プリントを、ランドセルからだしにいった。

正直なところ、ぼくはいままで、タツオくんのことなんか苦手<sup>にがて</sup>だった。ぼくのこといろいろめんどうみてくれるいい「お兄さん」なのはわかってたけど、なんでもてきばきできちやって、性格<sup>せいかく</sup>もぼくとはまるつきり正反対<sup>せいへんたい</sup>なんで、どういふふうにつきあったらいいんだかよくわからなくて、すきだけど、どっか苦手<sup>にがて</sup>だった。

でも、その日ぼくは、タツオくんでも泣いたりすることもあるんだって知った。しかも、ぼくにはタツオくんの気持ちがわかって、なぐさめてあげるなんてこともやれたってことは、ぼくにとっては大発見<sup>だいけっけん</sup>だった。

もちろん、喜べるような場合じゃなかったから、<sup>⑦</sup>タツオくんといっしょに落ちこんだ暗い気分のすみっこにあるあったかいものとして、そっとしまっておいたんだけど。

(出典 たつみや章『水の伝説』)

問1 ——線①「おばさんは反対意見<sup>はんたいいけん</sup>だった」とありますが、おばさんの意見を説明した次の文の□に入る言葉を、指定した字数で本文中からそれぞれぬき出して答えなさい。

十七字

のだから、村の人たちは□<sup>二字</sup>してくれる。

問2 ——線②「ぼくはタツオくんのひぎをつついて、ひそひそきいた」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 大人の話を盗み聞き<sup>ぬすき</sup>してはいけないから。
- イ 子どもには関係ない話で、おもしろくないから。
- ウ 意味はわからないが、直接聞くふんいきではないから。
- エ いろいろなことを早く覚えて家族のためになりたいから。

問3 □に入る語句としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 蔵<sup>くら</sup>がつぶれる
- イ 蔵<sup>くら</sup>がたつ
- ウ 石の上にも三年
- エ 三年鳴かず飛ばず

問4 (a) (c)に入る語を、次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号は一度しか使えません。)

- ア もちろん
- イ ついに
- ウ とにかく
- エ きつと

問5 【 】に入る語を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア さらっと    イ ぷいっと    ウ きびきびと    エ ぽそぽそと

問6 ——線③「それだけじゃないのかもしれない」とありますが、おじさんやおじいさんはこのめぐりあわせにどのような意味を感じとっているのですか。「く」という意味」につながるように四十字以内で答えなさい。

問7 ——線④「あのさ、宿題の算数プリント、もうやってあるんだけど。見る？」とありますが、「ぼく」はどのような気持ちからこの言葉を言ったのですか。もっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア タツオくんの問題についてはそつとしておきたい。

イ せめて勉強の点だけでもタツオくんの役に立ちたい。

ウ 話題を変えて、タツオくんの気持ちをほぐしてあげたい。

エ 宿題を早く終わらせて、タツオくんと遊びたい。

問8 ——線⑤「熱いものがのどにこみあげてきたと思うと、ぼろぼろっと目からこぼれた」とありますが、なぜ涙がこぼれたのですか。六十字以内で答えなさい。

問9 ——線⑥「ぼくにいったにしてはちいさな声でつぶやいて」とありますが、この時のタツオくんの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア リーダーとしての責任を果たそうとしている。

イ 泣いている「ぼく」を元気づけようとしている。

ウ 宿題がまだ終わっていないことをごまかしている。

エ 「ぼく」ではなく、自分自身をあげましている。

問10 ——線⑦「タツオくんといっしょに落ちこんだ暗い気分のすみっこにあるあったかいもの」とありますが、「ぼく」を「あったかい」気持ちにさせたのはどのようなことですか。「タツオくん」「発見」「以前」という言葉を使って六十字以内で答えなさい。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合で省略した箇所があります。)

ライオンやトラは大型のネコです。チーター、ユキヒヨウ、ピューマなども大型のネコで、すべて絶滅が心配されています。クマもやはり絶滅の危険があります。オオカミや南アメリカのタテガミオオカミはイヌの仲間、場所によっては絶滅し、またその危険性が大きいところもあります。フクロオオカミは哺乳類の中でも有袋類というカンガルーの仲間、オーストラリアのタスマニア島にいましたが、すでに絶滅してしまいました。それもそれほど昔ではなく一九三六年のことです。

これら大型肉食獣は現在生き残っていてもほぼすべてが絶滅の可能性が大きいのです。それには何か共通の理由がありそうです。

大型肉食獣は大量の食物が必要で、大型の草食獣を殺して食べます。そういう大型草食獣が暮らすには十分な植物がある広い土地が必要です。ネズミのような小さい動物なら狭い土地でも生きていきますが、ライオンはネズミを食べては生きていきません。また、大型草食獣は一日に動き回る範囲も広いし、中にはトナカイやヌーのように季節的に長い距離を移動するものもあります。このため、植物があつて、広い面積の土地があつても、小型草食獣はいるが大型草食獣はいないということもよくあります。こうなつても大型肉食獣は生きていけなくなります。逆に言えば、大型肉食獣が生き延びるためには、こうしたさまざまな条件のすべてが揃っている必要があるということです。

③ これら大型肉食獣に対して、オオカミはライオンよりは小さく、ふだんはシカなどを食べますが、シカが少なくなるとウサギやネズミでも食べて生き延びます。④ キツネはオオカミより小さく、夏は昆虫をよく食べます。⑤ というのは昆虫はどこにでもいて、鳥や哺乳類を獲るよりは楽だからです。⑥ タヌキの場合はあまり動物質は食べないで果実などをよく食べるし、都市やその近郊であれば残飯なども食べます。そのように、体がある程度小さくて、食べるものの幅が広い動物は⑥ 人間が自然を開発してもなんとか生きてゆけるのです。

一九世紀後半くらいから人口が増え、森林が伐採されたり、草原が⑦ 農地に変えられることが多くなりました。そして二〇世紀になるとますます野生動物が生きていけない場所が少なくなり、植物はあるが大型草食獣がないということが⑧ 頻繁に起きるようになりました。まして性能のよい猟銃ができ、自動車を使って狩猟をするようになると、草食獣も肉食獣もほとんど数が少なくなりました。ライオンはアジア、アフリカ、そしてヨーロッパまでの広い範囲に、またトラもアジアに広く分布していましたが、こうして今では⑨ ごく狭い範囲にしかいなくなつてしまいました。

大型肉食獣は「猛獣」と呼ばれて強い動物の代表のように考えられがちです。体の大きさ、力、攻撃などを基準にすれば「強い」大型肉食獣は、生態学的に見れば実は一番ひ弱な動物なのです。このことはとてもたいせつなのでよく覚えておいてください。

(中略)



## オオカミが消えたらビーバーも消えた

そうしてオオカミがいなくなると、オオカミに食べられていたシカが増えました。イエローストーンには三種類のシカがいますが、中でも体が大きく数も多いのがエルクと呼ばれるシカです。エルクはオオカミがいなくなつてから急激に増えました。その結果、植物に影響が出るようになりました。

その程度はどんどん強くなり、森林の跡継ぎになる若い木がほとんどなくなるようになりました。こうなると森林が維持できなくなります。また、低木類や草本類も強い影響を受けて植物の量が少なくなりました。そのために土砂崩れが起きたり、土地に保水力がなくなつて洪水が頻繁に起きるようになりました。

さらに、低木類がなくなったために、ある種の鳥が巣を作れなくなりました。また、川が変化したためにビーバーが暮らせなくなりました。このように、オオカミがいなくなり、エルクが増えたことが、イエローストーンの生態系全体のさまざまな面に大きな影響を与えることがはっきりしてきました。

こういう事態を見て、生態学者や公園関係者が議論した結果、オオカミを戻したほうがよいということになりました。そしてオオカミに対する悪いイメージを取り去るために、学校でも社会でも説明会などを開くなどして、実はオオカミはすばらしい動物なのだ、ということ伝える努力がなされました。そしてついに「オオカミ、お帰りなさい計画」が実現しました。長いあいだ悪魔のように考えられていたオオカミを、地元の小学生たちが「お帰りなさい」と歓迎したのです。

その後、さまざまな準備期間を経て、オオカミがイエローストーン国立公園に放たれました。オオカミの動きが追跡され、オオカミがどういう場所でエルクを襲うか、どれくらいのエルクを食べるか、またそれはいつのことで、殺されるエルクの年齢はどれくらいかなどのデータもとられました。もちろんエルクの頭数や、エルクがオオカミに対してとる警戒行動、利用する場所の変化なども調べられました。

オオカミが戻ってきたことの影響ははつきり現れました。たしかにエルクは減り、森林も甦つてゆきました。川ももとのようになり、ビーバーも戻ってきたのです。

## 学ぶべきこと

イエローストーンのできごとはたくさんを教えてください。ひとつは、ヨーロッパからの移民はオオカミを悪魔とみなす文化を新天地にまで持ち込んだということです。たしかに、オオカミの撲滅が進められた背景のひとつには、放牧家畜が襲われたことがありました。その意味ではオオカミを殺すことは合理的な判断でもあったのです。しかしそれが理由であるならば、被害を出す一部のオオカミを駆除すればよいのであって、見さかしく皆殺しにする必要はないはずです。それを撲滅にまで追いやった根本には、<sup>⑩</sup>オオカミに対する偏見があったことはたしかでしょう。人は自分の育った文化のなかで価値観をはぐくむもので、そこから逃れるのはとてもむずかしいことなのです。

学ぶべきことのもうひとつは、オオカミを撲滅したとき、関係者は、<sup>⑪</sup>人とオオカミという二者対立の図式だけでしか考えていなかったということです。まさかオオカミを殺すことで鳥がいなくなるとか、川の水の流れが影響されるなど思いも及ばなかったことでしょう。しかし、自然界の生き物はつながっているのです。イエローストーンでのオオカミに関するできごとは、自然のしくみを理解していないと大きな過ちを犯す、ということを教えています。このようにさまざまな問題や過ちがありました。アメリカのできごとを批判するだけではフェアではありません。私たち日本人が反省すべきことでもあります。日本でも二〇世紀の初めに本州のオオカミと北海道のオオカミが絶滅しましたが、少なくとも北海道のオオカミは「撲滅」されたのであり、それには「先進国」アメリカの撲滅技術が導入されました。ストリキニーネという毒薬を使って撲滅したのです。日本人はオオカミを悪魔のように毛嫌いしていませんでしたが、明治時代の北海道開拓では森林を伐採することやオオカミやヒグマを駆除することはむしろ正当な仕事であり、推奨されていたのです。そうした流れの中で北海道のオオカミ撲滅がおこなわれました。

アメリカではオオカミ撲滅の悪影響に気づき、大きなプロジェクトとしてオオカミ復帰を実現させました。失敗をしても論理的に過ちであると気づいて反省し、困難な復帰計画を成功させたことは高く評価できます。こういう姿勢は大いに学ぶべきだと思います。オオカミ復帰の結果、少数ながら家畜が襲われるということもあり、その場合はオオカミを駆除し、補償金を出すなどの対応がなされています。<sup>⑫</sup>そのような困難な活動を粘り強く進めていることも、また見習うべき点と言えるでしょう。

(出典 高槻 成紀『動物を守りたい君へ』)

問1           に入る言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 草食獣や肉食獣の減少      イ 大型肉食獣は活動的      ウ 小型肉食獣の絶滅      エ 猛獣はひ弱

問2 ————線①「移動」・⑦「農地」の熟語と同じ成り立ちのものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

①「移動」

ア 登山      イ 海水      ウ 生産      エ 水害

⑦「農地」

ア 無害      イ 歩道      ウ 国連      エ 帰国

問3 ——線②「さまざまな条件」に当てはまるものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ウサギやネズミなどの小型草食獣がいること

イ アジアからヨーロッパまで広く分布すること

ウ 大型草食獣のような大量の食物があること

エ 十分な植物がある広い土地であること

問4 ——線③「これら大型肉食獣に対して、オオカミはライオンよりは小さく、ふだんはシカなどを食べます」とありますが、「食べます」の主語にあたる部分を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

これら大型肉食獣に対して、アオオカミは イライオンよりは 小さく、ウふだんは エシカなどを 食べます

問5 ——線④「キツネ」・⑤「タヌキ」とありますが、これらはどのような動物の例として挙げられていますか。本文中から二十五字以内でぬき出して答えなさい。

問6 ——線⑥「人間が自然を開発して」とありますが、その具体例を本文中から一つ挙げなさい。

問7 ——線⑧「頻繁」・⑨「こく」の意味としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

⑧「頻繁」

⑨「こく」

ア ひっきりなしに行われること

ア 少し

イ 勢いの強い様子

イ やや

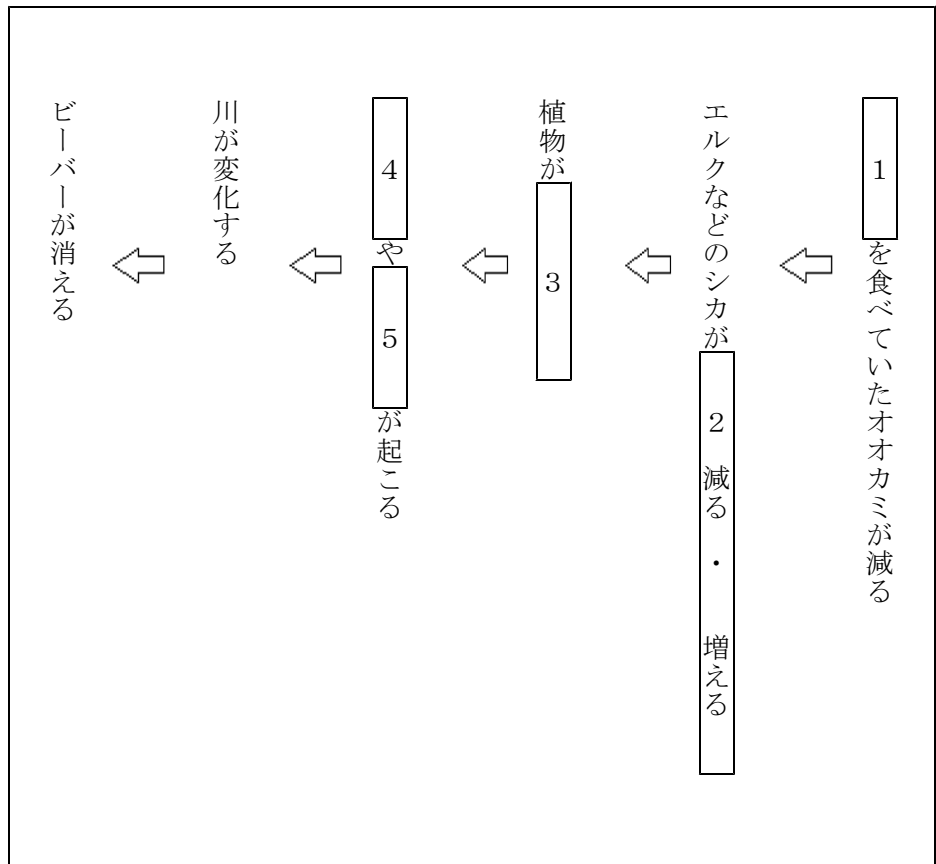
ウ 何度もやり直すこと

ウ きわめて

エ あちこちで起きる様子

エ まるで

問8 本文中の「」で示した部分の内容を図に表すと次のようになります。次の□1□5に入る語句を答えなさい。ただし、□2□はどちらかを  
選びなさい。



問9 ———線⑩「オオカミに対する偏見があった」とありますが、その結果どのようなことが起こりましたか。十五字以上二十字以内で答えなさい。

問10 ———線⑪「人とオオカミという二者対立の図式だけでしか考えていなかった」とありますが、本来はどのようなことを考えて行動するべきなのか。すか。「〜ということ」につながるように本文中から十五字でぬき出して答えなさい。

問11 ———線⑫ 「そのような困難な活動を粘り強く進めていることも、また見習うべき点と言えるでしょう」とありますが、もう一つの見習うべきこととは何ですか。本文中から三十九字でぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

問12 本文には人間の行動が野生動物の世界に影響する場合があると書かれていました。あなたの身のまわりで、人間の行動が自然界に影響を与えている例を一つ挙げ、それについてあなたの意見を八〇字から一〇〇字で書きなさい。

これで問題は終わりです。

